

平成25年度 社会教育振興に関する調査研究事業

「公民館（コミュニティセンター等も含む）
における学校との連携に関する調査」

調査結果

福岡県立社会教育総合センター

平成25年12月

目次

I 調査の概要

調査の趣旨	P 1
-------	-----

II 調査結果

設問1 公民館（コミュニティセンター等も含む） における学校との連携の有無	P 2
--	-----

設問2 連携・協力事業の内容	P 4
----------------	-----

設問3 連携・協力事業を進める上で、 窓口（コーディネーター）になられる方	P 11
--	------

参考（巻末）

「公民館（コミュニティセンター等も含む） における学校との連携に関する調査」調査票
--

平成25年度 社会教育振興に関する調査研究

公民館（コミュニティセンター等も含む）における学校との連携に関する調査」報告書

I 調査の概要

1 調査の趣旨

平成24年度に当センターが実施した、「市町村における生涯学習・社会教育行政を所管する組織及び事業等に関する調査」において、機構改革により生涯学習・社会教育行政の首長部局への移管が進みつつも、今後もこれまで社会教育が大事にしてきた、まちづくり・地域づくりは重点事業として位置づけられていることが明らかとなりました。中でも公民館（コミュニティセンター等も含む）は、地域住民の学習や交流を通じて地域の教育力の向上や活性化を図る場として重要な役割を担うことが期待され、平成20年の中央教育審議会答申「新しい時代を切り拓く生涯学習の振興方策について～知の循環型社会の構築を目指して～」でも、公民館は地域の社会教育の拠点として積極的に活用される必要があると述べられています。

また平成25年1月の「第6期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理」では、今後の社会教育行政は、学校・家庭・地域の連携協力の推進が極めて重要であり、この3者の連携協力は、地域コミュニティの活性化につながると明記されています。

そこで地域における社会教育の中核である公民館（コミュニティセンター等も含む）と学校との連携に係る事業等の状況を把握し、学校・地域の連携を推進するための基礎資料とするために本調査を実施しました。

2 調査の実施者

（1）福岡県立社会教育総合センター

3 調査の対象

（1）福岡県内の公立公民館等、公民館類似施設等

＊ 本調査での公民館については、中央公民館、地区館、分館、校区公民館、コミュニティセンター、生涯学習センター等の類似施設（自治公民館を除く）を指します。その他、本調査の趣旨から職員が常駐し管内小中学校と連携している、又は連携できるとされる公民館等も含めています。

但し、職員は常勤・非常勤の種別は問いません。

4 調査の実施期間

（1）平成25年8月下旬～9月下旬 提出期限 平成25年9月20日（金）

5 調査方法

（1）調査は質問形式の調査票。

（2）調査票は、県立社会教育総合センターより、各市町村担当課に送付。その後各市町村担当課より、それぞれの公立公民館等へ配付し、当センターへの送付。

6 回収数

（1）県内公立公民館、公民館類似施設（政令市を除く） 260館

＊この調査については、公民館等母数が不明のため、すべての公民館等にお答えいただいているとは限りません。参考程度にとどめておいてください。

7 調査内容

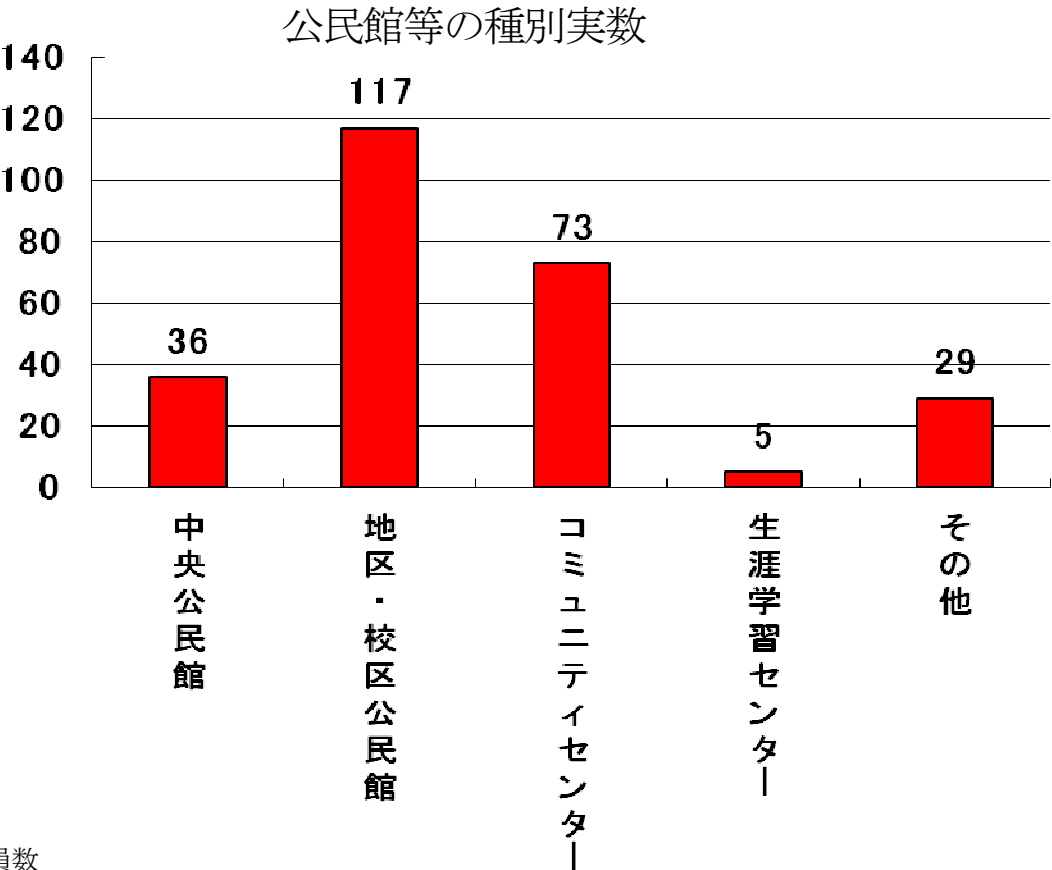
設問番号	質問事項
設問1	公民館（コミュニティセンター等も含む）における学校との連携の有無 問1 施設種別 問2 職員数 問3 連携・協力事業の有無 問4 学校・公民館の窓口
設問2	連携・協力事業の内容 問1 学校教育活動及び公民館活動における連携・協力事業内容について 問2 連携・協力事業による成果 問3 連携・協力事業による課題 問4 連携・協力事業を進めていく上で重要と思われること
設問3	連携・協力事業を進める上で、窓口（コーディネーター）になられる方 問1 コーディネーターの有無 問2 コーディネーターについて 問3 コーディネーターの役割 問4 コーディネーターのよさ 問5 コーディネーターがいない場合の窓口 問6 コーディネーターの必要性の有無と理由

II 調査結果

設問1 公民館（コミュニティセンター等も含む）における学校との連携の有無

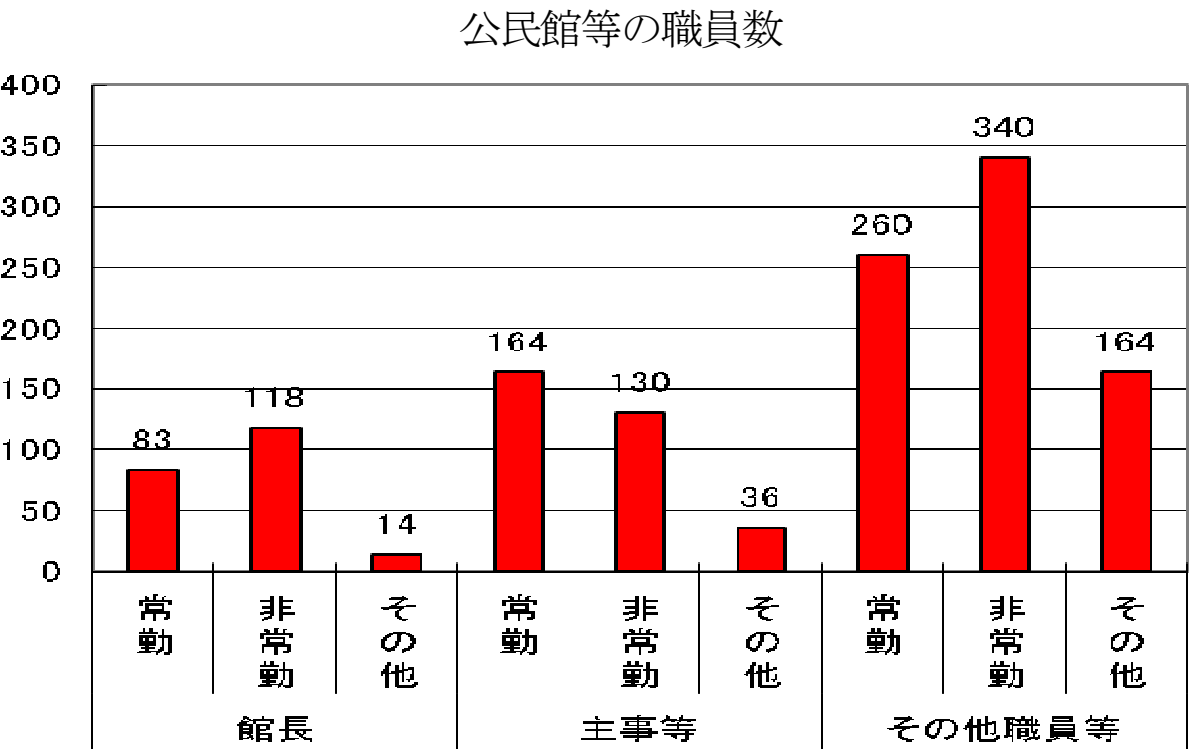
問1 回答して頂いた公民館等の施設種別数

*公民館等の総数は不明であるが、コミュニティセンター及びその他の名称の施設の占める割合が、回答公民館等の総数の約4割を占めている。



問2 職員数

*公民館等で勤務する職員は、館長・主事以外の方が半数以上を占めている。また非常勤の方の占める割合も大きい。

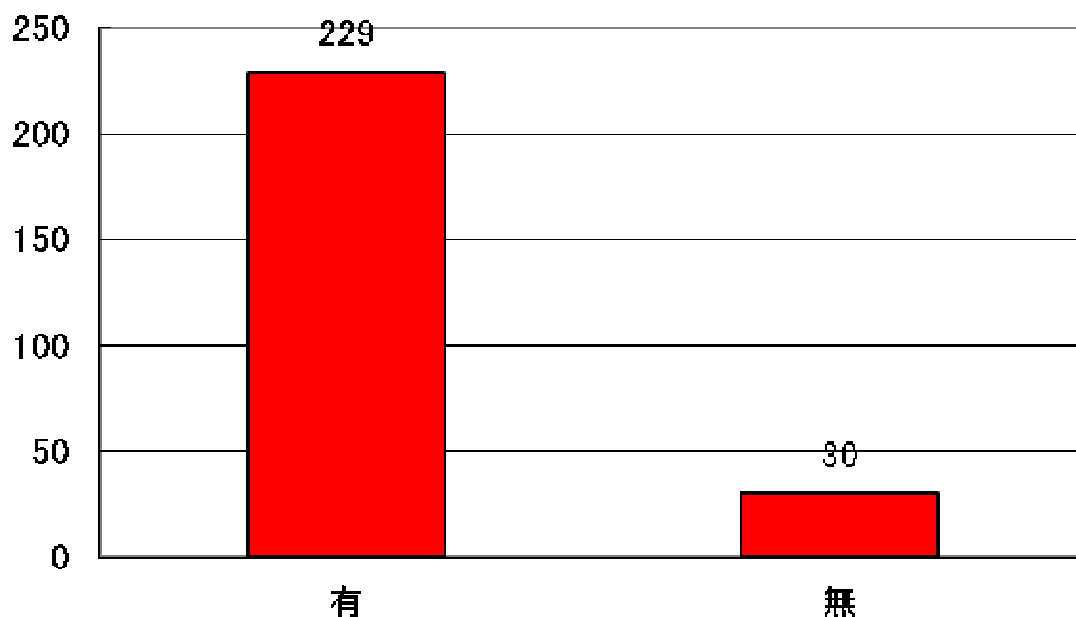


*その他：自治会長兼任、社会教育指導員、地域活動指導員等

問3 連携・協力事業の有無

*何らかの形で、学校と連携・協力している公民館等は、回答公民館等数の約88%。

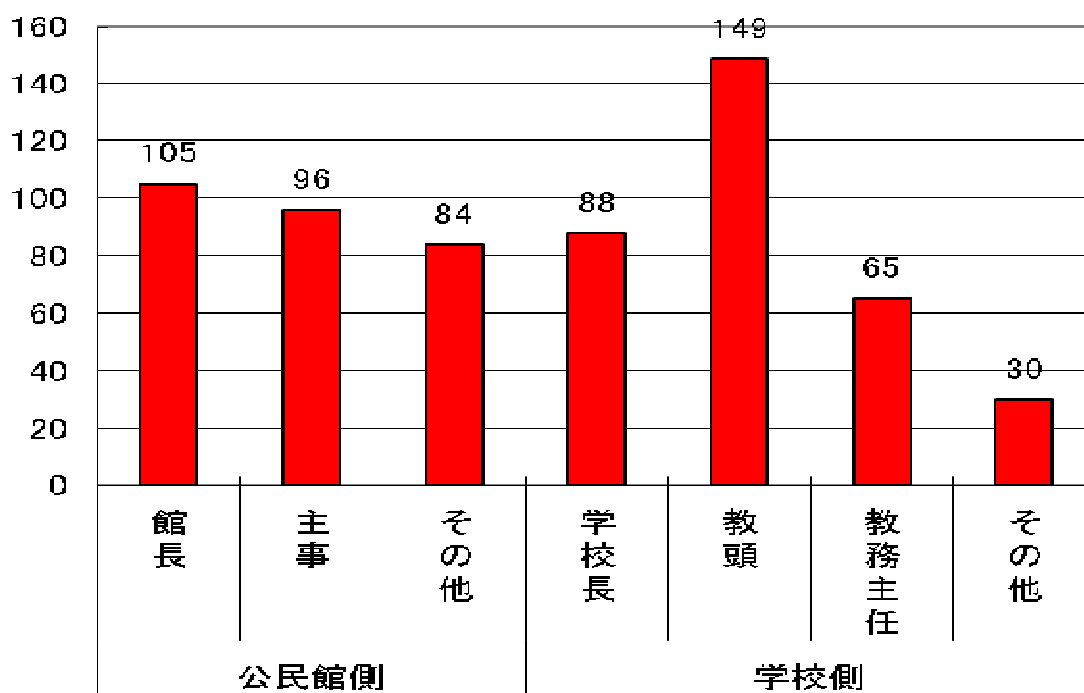
学校との連携の有無



問4 学校・公民館の窓口（複数回答）

*連携する際の窓口になれる方は、公民館は館長と主事がほぼ同数。学校側は教頭が最も多い。
学校側で、教頭が多いのは対外的な渉外の窓口であり、教育課程全体を見通した上での連携・協力を進めやすいのではないだろうか。

連携する際の窓口



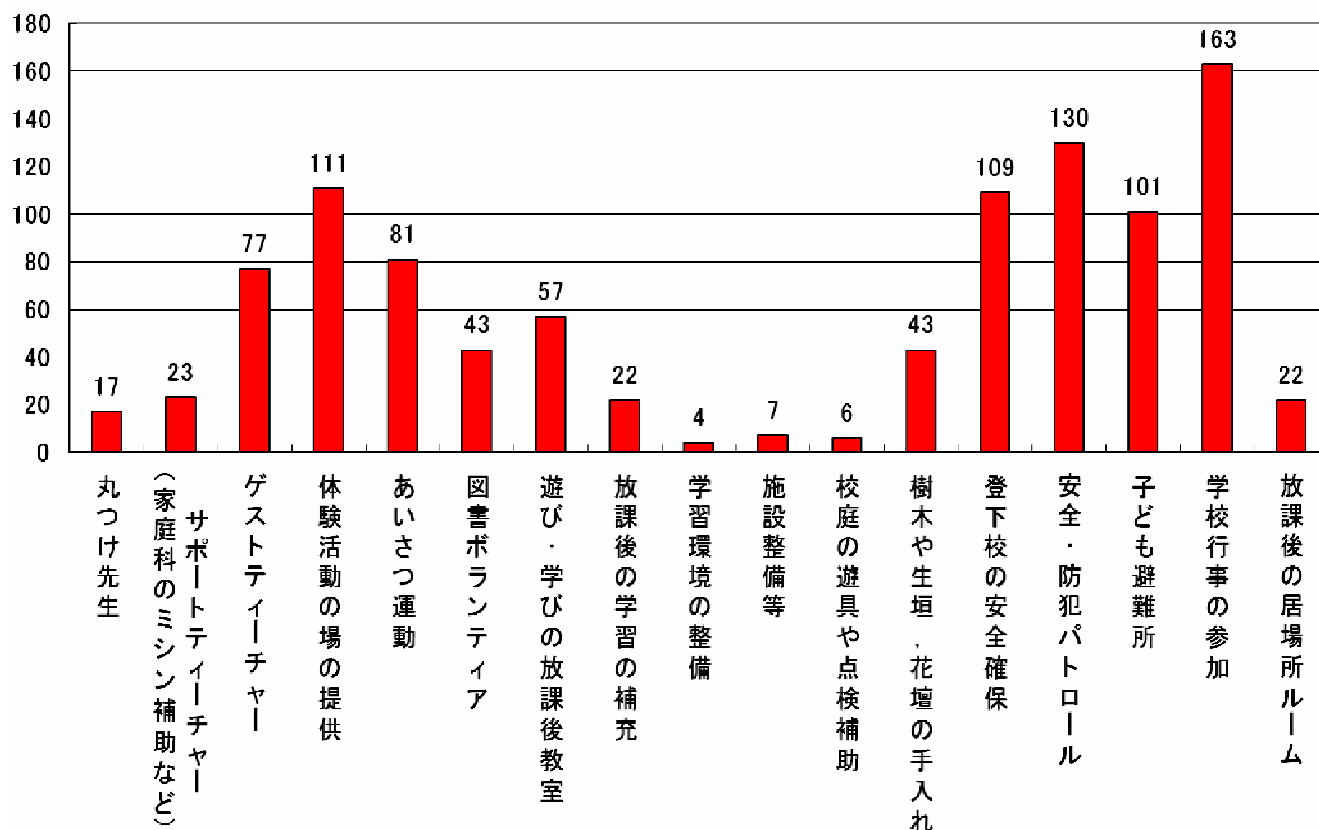
設問2 連携・協力事業の内容

問1 学校教育活動及び公民館活動における連携・協力事業内容について（複数回答）

○学校教育活動において

*米作り等の学校行事への参加、安全・防犯パトロール、体験活動の場の提供の順になっている。

学校教育活動における連携・協力事業内容



(具体的な連携・協力事業に関する自由記述抜粋)

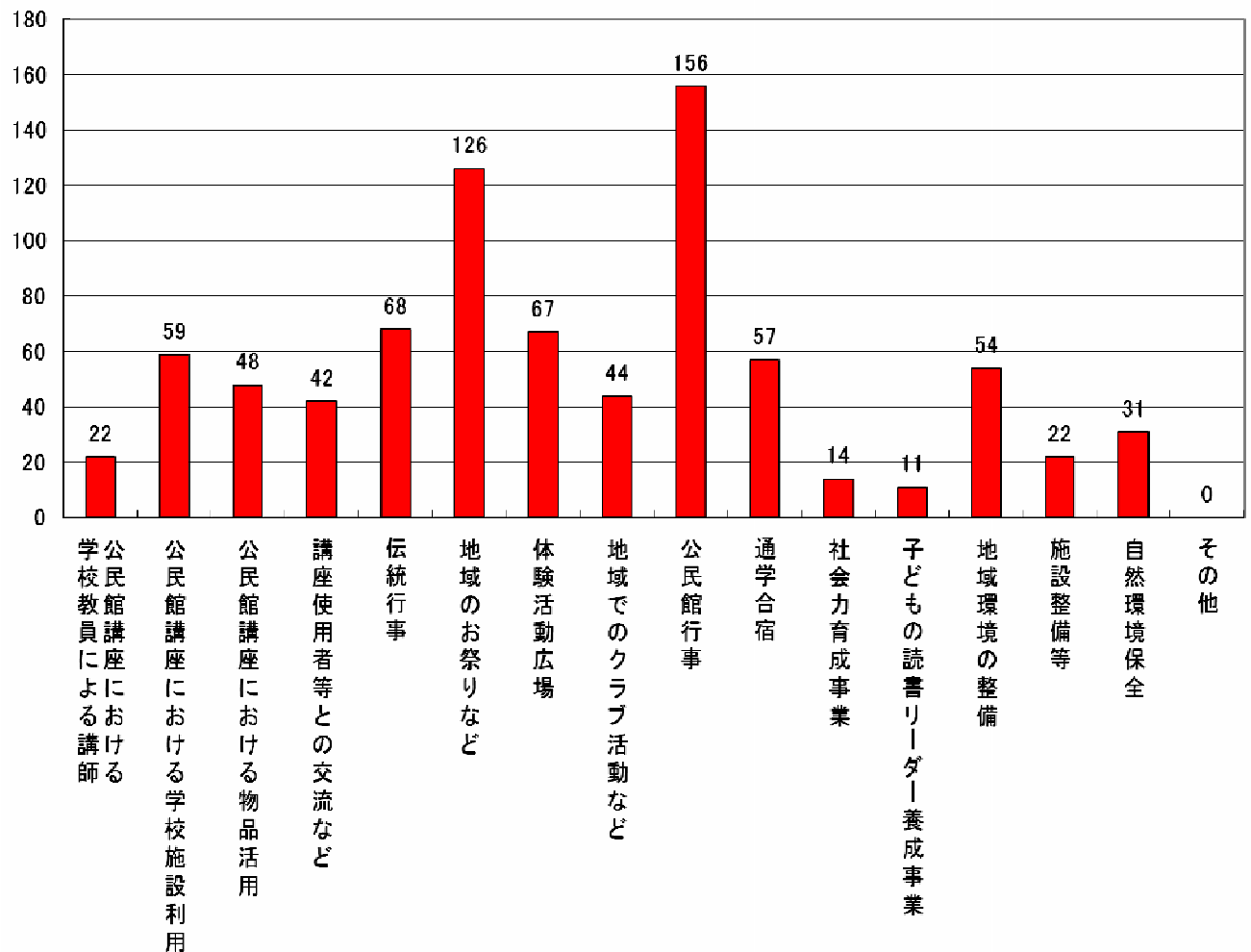
- ・授業支援（習字、公民館学習、水泳、楽器作り、掛け算練習、点字・アイマスク学習、丸つけ、水墨画、天体観測、書道、はがき絵、地元生産物を活かした授業等）
- ・総合学習への支援（田植え、梅干作り、しょうがづくり、昔遊び、梅ジュースづくり、伝統芸能の学び等）
- ・学校行事（運動会、遠足、ふれあいまつり、野菜植え、クリーン作戦、ポイントラリー、芋ほり、年1回の炊飯活動、餅つき、高齢者への手紙送付活動、七夕まつり、芋苗植え、スポーツフェスタ、クラブ活動支援等）
- ・ホームページ作成、管理
- ・地域情報誌の発行
- ・地域講演会の組織、管理
- ・夏休み中の地域での学習会、親子クッキング、キャンプ、パソコン等
- ・学校菜園の指導、協力
- ・土曜塾（体験活動、生け花、英会話等）
- ・公民館便りに学校便りを掲載
- ・人権講座
- ・合同のカレンダーを作成し、全戸配布
- ・生徒との意見交換会
- ・PTAとの共催事業

等、地域の特性、人材を活かした授業支援、学校行事支援を行っている。

○公民館活動において（複数回答）

＊公民館行事や地域のお祭りなどへの参加が増えているという回答が多く、そのことにより地域のつながりも強くなってきているという回答が多かった。

公民館活動における連携・協力事業内容



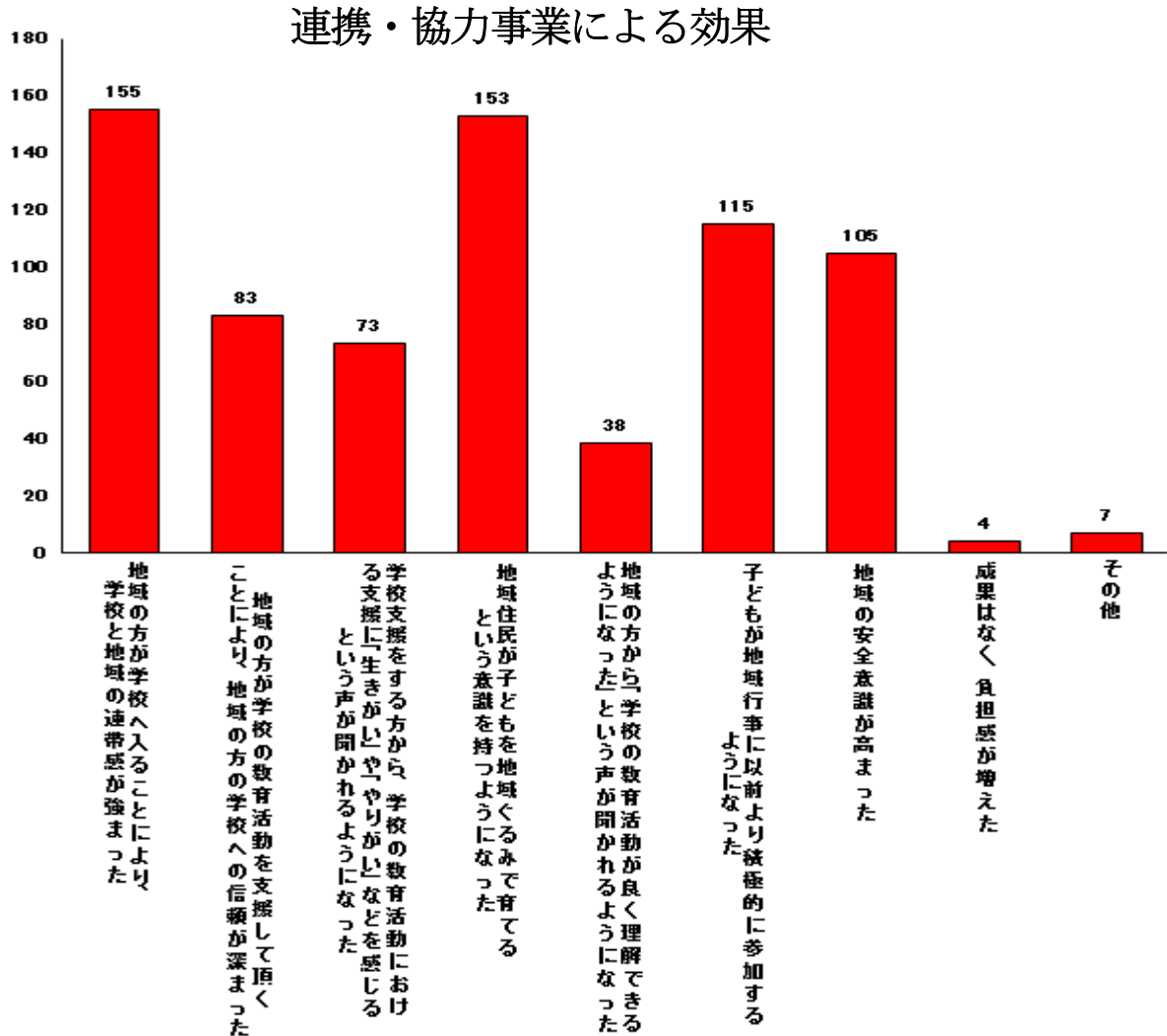
（具体的な連携・協力事業に関する自由記述抜粋）

- ・体育祭、地域の祭りでの児童・生徒の出。
- ・高齢者のパソコン講座において、ＰＣ教室の借用だけでなく、生徒も支援してくれている。
- ・夏季休業中に、大学生による小学生の学習指導
- ・伝統行事への参加
- ・河川等の清掃、美化活動
- ・地域福祉活動（高齢者への関わり、見守り活動、敬老会等）
- ・公民館のお楽しみ会等（子どもと大人の交流事業）
- ・防災訓練
- ・体験活動（農園、土曜塾、アンビシャス広場、魚とり、餅つき、そうめん流し、地域ウォーラリー等）
- ・文化祭への参加
- ・子どもの料理教室
- ・ジュニアリーダー育成事業
- ・企画運営の協力支援

等、講座、伝統行事、体験活動などへの参加を、学校を通じて呼びかけてもらうことで、参加が増えてきている。その参加を通じて、児童・生徒が高齢者や地域の方とのふれあう機会になっている。

問2 連携・協力事業による成果（複数回答）

＊学校との連携により、学校のことを知る機会が増え、「地域ぐるみで子どもを育てる」という機運が高まってきている。また、連携事業等により個人の生きがいがいづくりにつながっている。



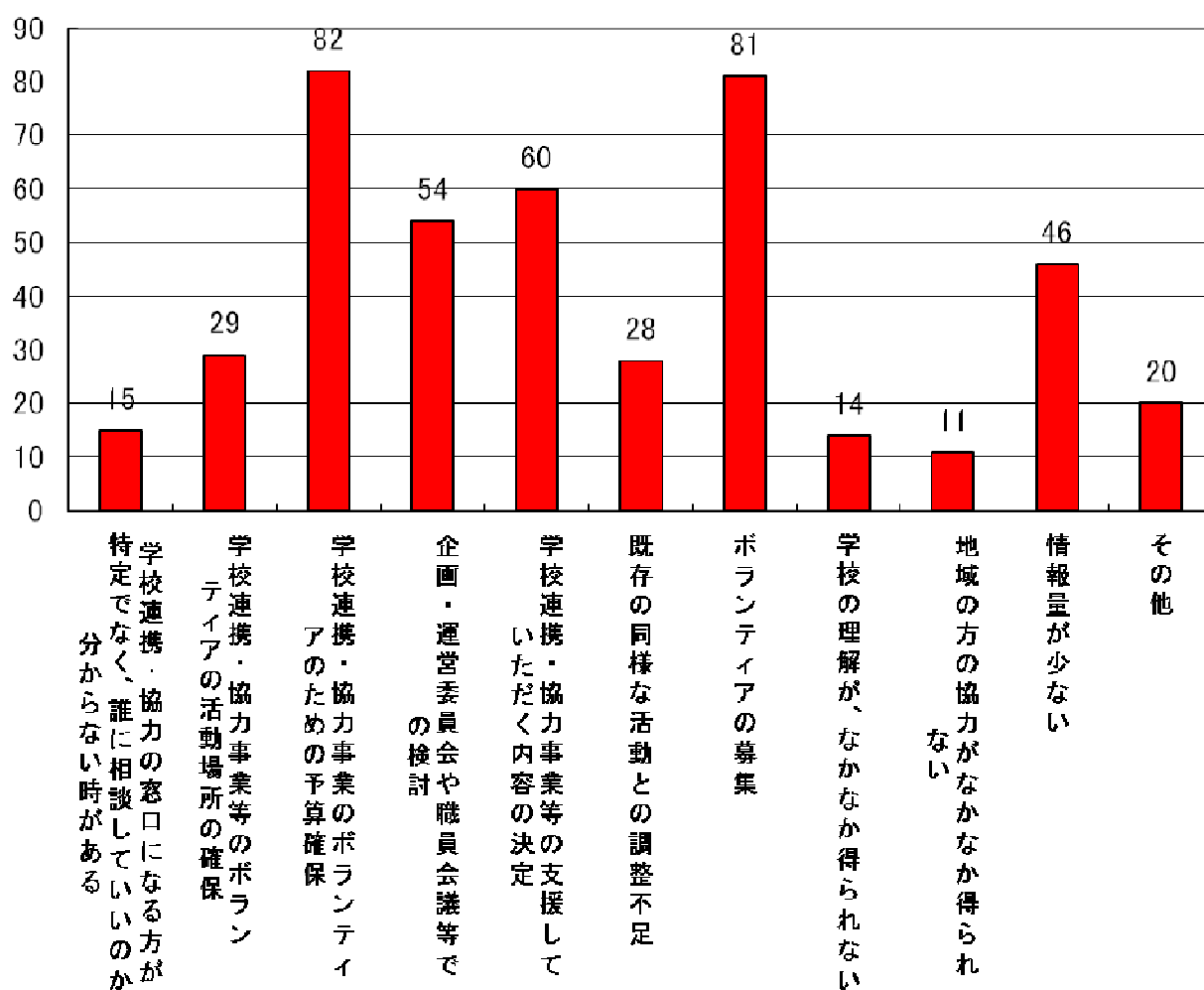
（効果に関する自由記述抜粋）

- ・学校から地域への参加が増えている。
- ・高齢化地区における人的パワー不足の解消、癒し効果など、高い評価を得ている。
- ・3者（学校・地域・保護者）の会合は、連携推進には有効である。
- ・地域と学校の距離が縮まっている。
- ・高齢者の参加の機会が増えた。
- ・子どもの挨拶や行事への参加が増えた。また参加している意識が非常に高い。
- ・職場体験は、自分の将来の指針となった。
- ・数多くの青少年育成事業があるが、地域の方は積極的に関わっている。これまでの（連携の）成果である。
- ・いじめ、不登校をはじめとする児童生徒の問題行動に対応するネットワークづくり。
- ・忙しい親の代わりに、地域で手助けして、子どもを育てていこうとなりつつある。
- ・行事がマンネリ化しており、意識の高まりもない。こういう時にこそ連携の事業は必要である。
- ・あいさつ運動が地域に元気をもたらしている。
- ・保護者が地域の事業に、積極的に参加するようになった。
- ・学校へ出向きやすくなったという声が聞かれる。
- ・子どもを地域で育てるという意識から、地域の連帯につながっている。
- ・子どもの成長の様子が分かることで知り合いになり、子どもたちの地域での安心感や社会性・規範意識が高まっている。
- ・核家族化の中で、地域住民との交流は、優しい心の醸成等につながっている。
- ・地域環境（自転車放置、ごみ投棄等）
- ・コミュニティ・スクールにより地域、家庭が随分変わった。連携がよくなった。

問3 連携・協力事業による課題（複数回答）

*課題については、ボランティアの確保や予算の項目が多いが、推進するためには情報の不足（支援の内容や企画等）を解消する必要がある。

連携・協力事業による課題



（課題に関する自由記述抜粋）

～共通の課題～

- ・連携のための連携になっていないか。人集めのための連携になっていないか、点検が必要。
- ・校区全体、一人ひとりに理解されるために、情報提供をさらに進めることが課題。
- ・情報の発信、共有にもっと意識を持つことが必要。（学校訪問や団体との打ち合わせに努力している）
- ・お互いに、させられているという考えをなくすこと。
- ・日常的な情報の交換ができていない。
- ・取組が増えてくると、より良い関係になる。
- ・学校支援が主で、地域支援は少ない。互惠関係の調整が必要。

～主として学校側の課題～

- ・学校長の方針で、地域とのかかわり方に差異がある。問題ない事業のみの連携で、課題を共に解決しなければならないのには消極的。学校と地域の連携に関する認識を揃える必要性。
- ・教員が地域のことを知らない。連携もなく責任感もない。
- ・各学校での取り組みの差異が、教員の異動によりその地域との連携に差がでる。
- ・学校は「～してもらう」という意識が強いが、地域への協力という意識は低い。
- ・年度当初に協議をするが、学校サイドの事務引継ぎが重要。
- ・学習指導要領の改訂のため、学校に時間の余裕がないように感じる。また土曜授業の開始により、公民館事業と学校の日程が合わない場合がある。

- ・教員により連携に格差がある。
- ・教育課程がぎっしりで、なかなか入り込めない。
- ・日常的なつながりが必要。そのためには連携のための基礎的な取組が必要である。公民館学習などをもっと、お互いがつながるような取組にする必要がある。
- ・PTAとの連携を考える必要がある。
- ・中学生の参加を増やしていきたい。

～主として地域側の課題～

- ・支援者の高齢化により、負担感が増してきている。
- ・ボランティアスタッフの募集（人材、企画力）。
- ・学校と地域の交流、協力のためには、地域の理解と協力が必要。また父親の参加も望まれる。
- ・地域人材の特技に片寄りがある。
- ・次世代の地域リーダー育成
- ・マンパワーの不足
- ・保護者の理解と地域行事への参加。

～主として公民館側の課題～

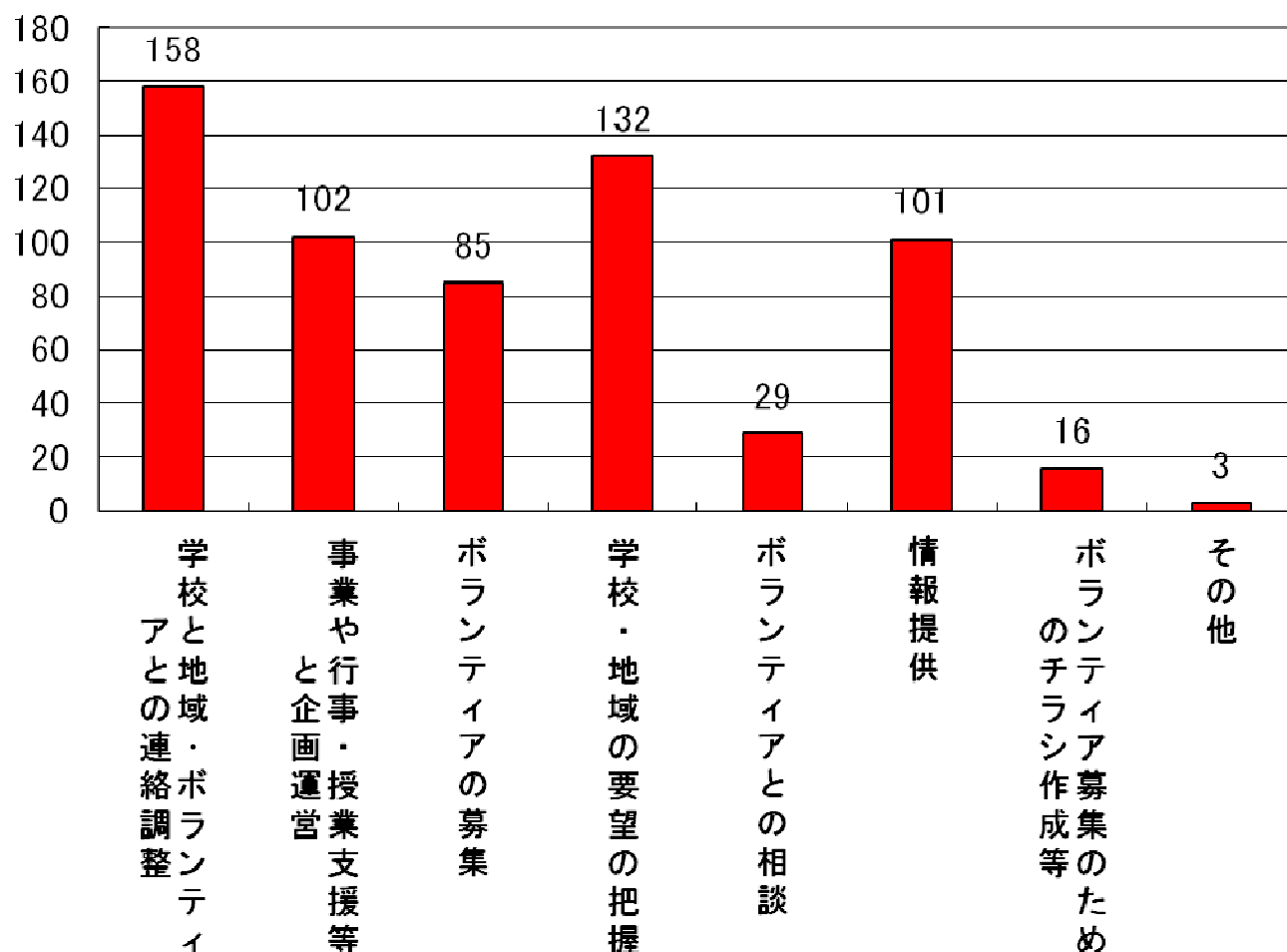
- ・立案、計画段階で、学校と地域の方針が違う場合に、調整が難しい。
- ・常勤の職員がおらず、事業の実施が難しい。
- ・貸館という立場では、連携は難しい。
- ・公民館便りで、事業の報告・募集等をしているが、今後はHPで広く行っていく必要がある。
- ・公民館行事の参加につながらない。

・

問4 連携・協力事業を進めていく上で重要と思われること（複数回答）

＊連携の目的の共有、そのための情報交換が連携を推進していくためには重要とあげている。

連携・協力事業を進めていく上で重要なこと



（自由記述抜粋）

～目的等～

- ・連携を、県として推進するなど、方針を徹底することが必要。
- ・課題は色々あっても、お互いが話し合い、解決するように努力することが重要。
- ・なぜ連携するのか、どんなメリットがあるのか等を、お互いが理解を深める必要がある。そうでないと、地域の方に広めるのは大変。

～調整に関すること～

- ・お互いの年間のスケジュールの把握と調整。
- ・確認の方法が学校と地域では違うし、どちら側が主体性を持つのが難しい面もある。
- ・中1ギャップの解消に向けての、連携の対策が必要。

～情報共有に関すること～

- ・地域リーダーと学校長との情報交換。
- ・学校、公民館、PTAなど、お互いの情報共有が重要で、協力体制をとること。
- ・学校と地域情報交換が、前向きに行われることが必要。
- ・学校窓口の明確化とオープン化

～ニーズ把握に関すること～

- ・どんなことを、どんなときに、どのように協力していくのか等のニーズの把握。
- ・企画や事業がマンネリ化している傾向がある。色々と情報を見ながら、どんなニーズがあるのか考える必要がある。

～地域側に関すること～

- ・自治会体制の再整備
- ・地域の支援可能な人材の情報と調整
- ・ボランティア精神についての知識や共通認識
- ・子どもは地域が育てる、まちづくりに対する住民の意識醸成。
- ・地域と各団体（老人会、女性部会、サークル、クラブ等）など情報のやり取りをすることにより、ボランティアに巻き込めることができ、個々の負担が軽減し、活動の選択もやりやすくなる。
- ・子どもたちの公共性や社会性を育む地域支援の必要性がある。

～その他～

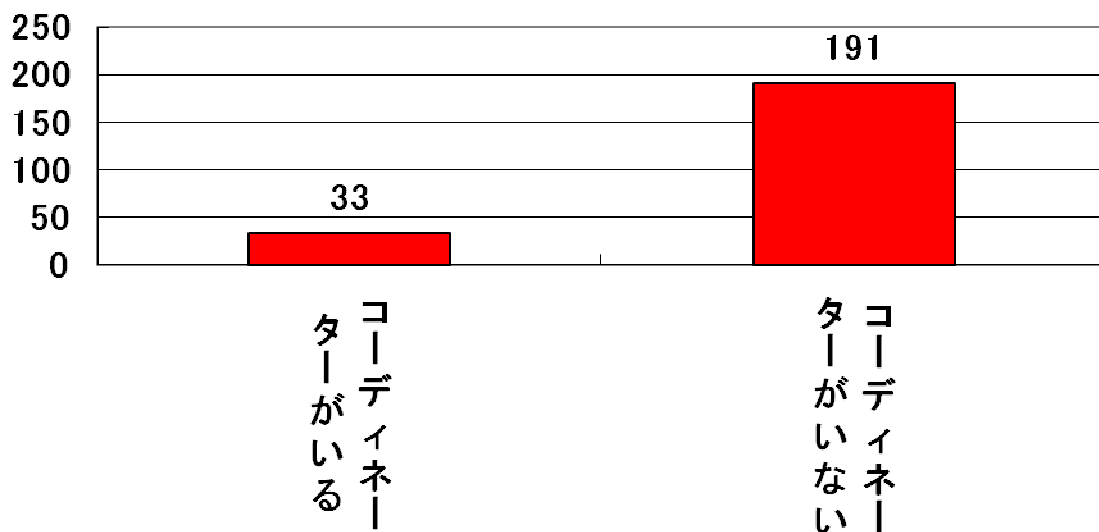
- ・運営費の確保

設問3 連携・協力事業を進める上で、窓口（コーディネーター）になられる方

問1 コーディネーターの有無

*コーディネーターを置いているのは、回答総数の約15%である。つまり残り85%の公民館等は、専門のコーディネーターがいなくても、学校との連携を進めている。

コーディネーターの有無

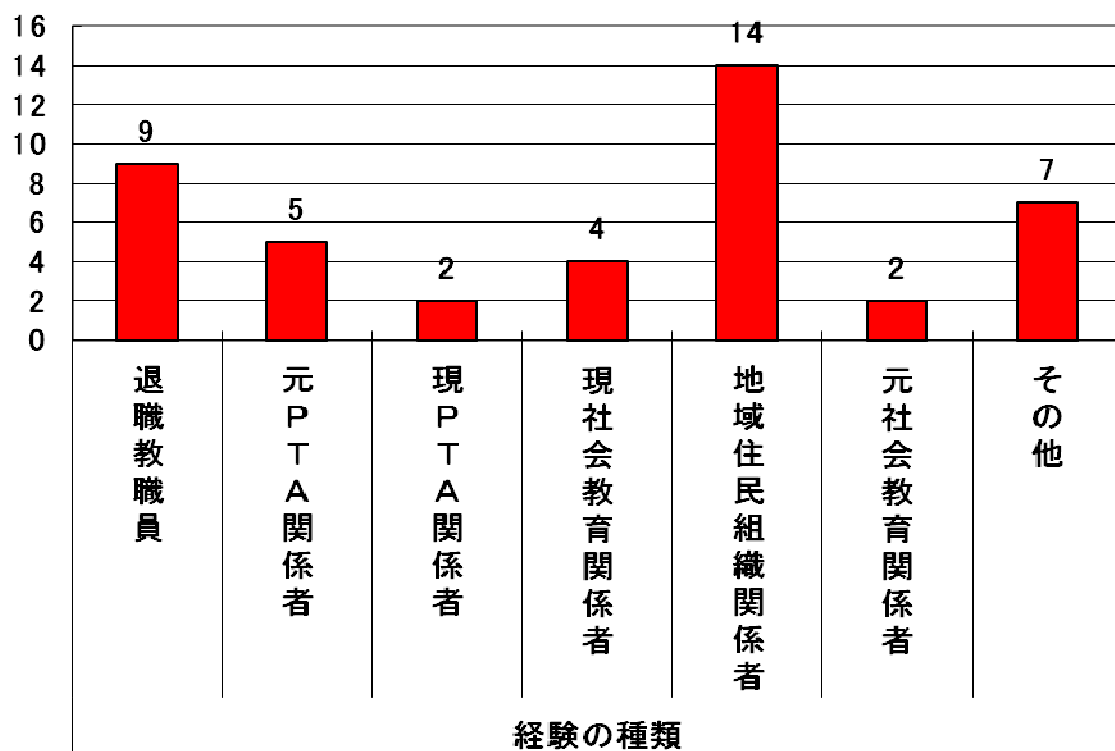


問2 コーディネーターについて

○経験の種類について

*専門のコーディネーターは、学校の教育課程を知っている退職教職員と地域の資源を知っている地域住民組織関係者が多い。

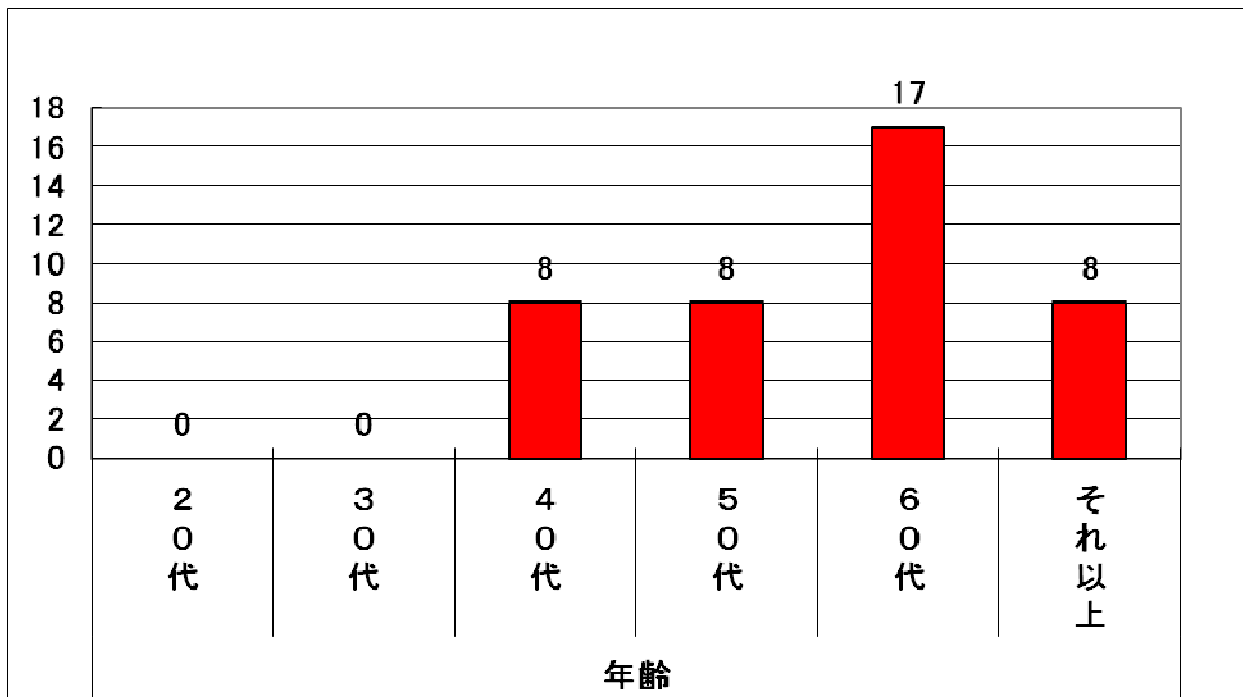
コーディネーターがいる場合の経験の種類



○年齢構成について

*60代が最も多い。

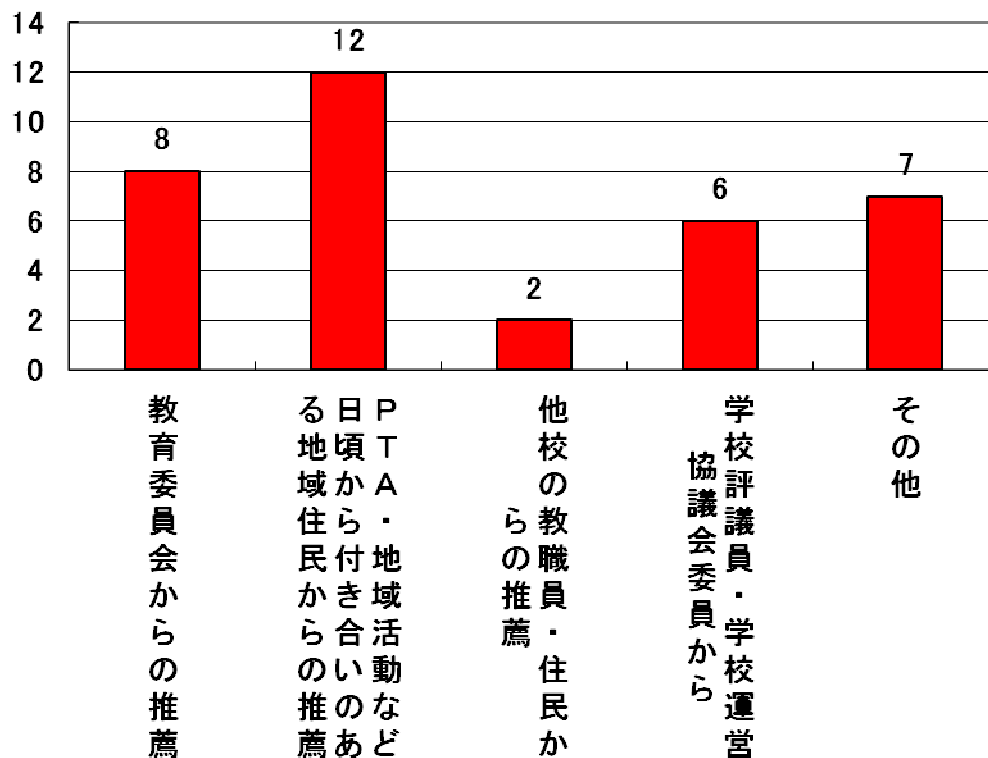
コーディネーターがいる場合の年齢構成



○選定理由

*学校、地域と両方につながっている方が、連携のつなぎ役として登用されている。

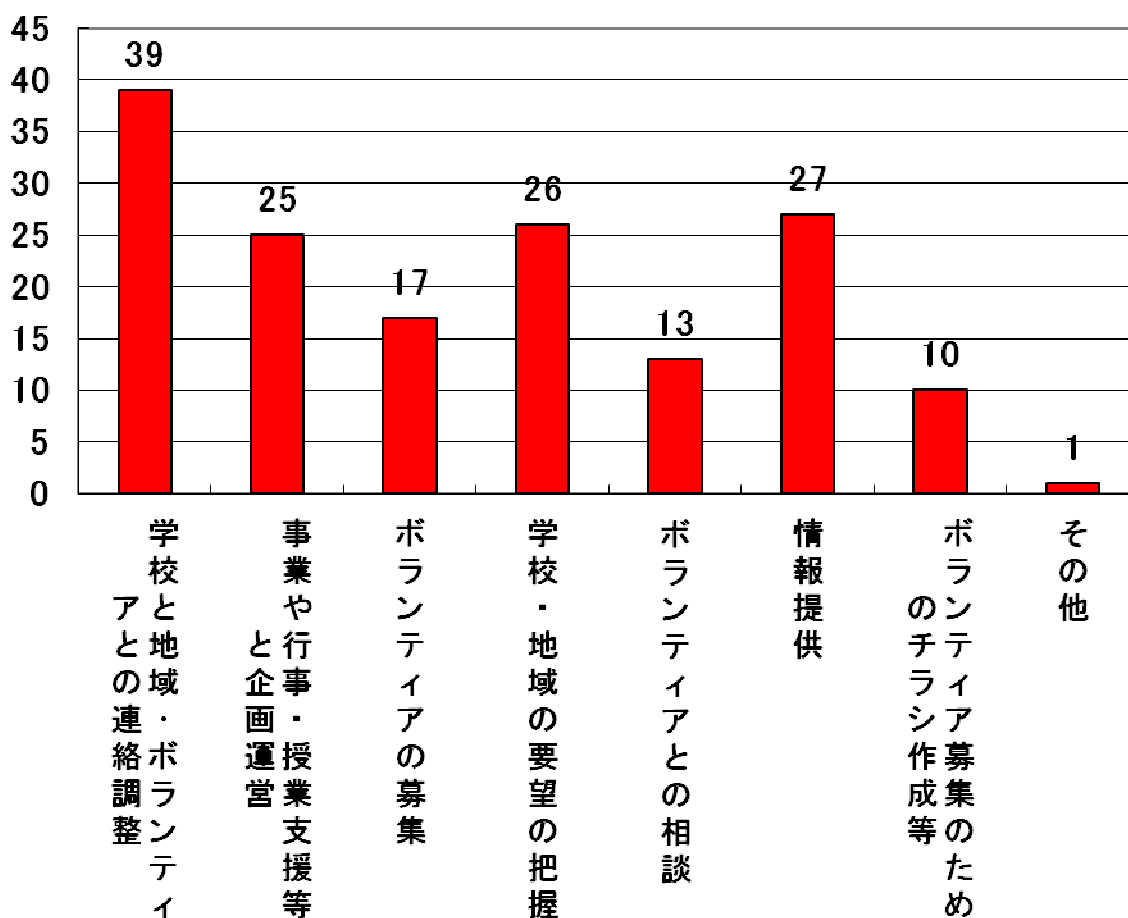
コーディネーターがいる場合の選定理由



問3 コーディネーターの役割（複数回答）

＊学校と地域の連絡調整、双方の要望把握等、連携のための事業実施において重要な役割をしている。

コーディネーターの役割



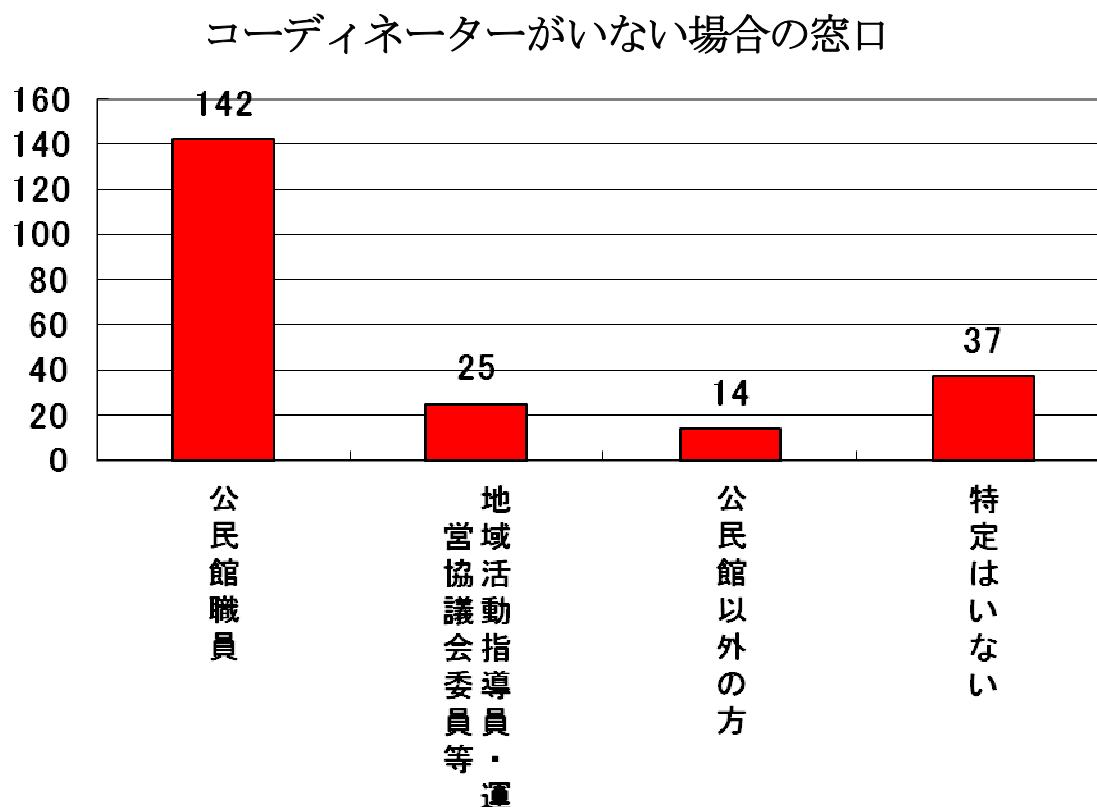
問4 コーディネーターのよさ

○ コーディネーターが連携推進に向けて、どのようなことをしているのか又、成果について具体的な自由記述

- ・自治会とコーディネーターとの調整
- ・学校との連携が深化した。
- ・学校運営協議会へ出席することにより、情報が得られる。
- ・自治会長が学校運営協議会会長を務めているので、学校と自治会長との連携により運営。
- ・事業を推進する上での牽引役として効果をあげている。
- ・お互いの基本方針を確認し、徹底した意見交換ができています。
- ・学校と地域・ボランティアとの連絡調整が円滑に運ぶ。
- ・両者の意見をワークションにおいて伝えることができ、うまく連携できる。
- ・学校行事や内容をある程度理解されているので、連携・協力がしやすい体制が取れる。
- ・地域全般の知識の有効活用ができる。
- ・地域における生涯学習事業の取組が広がり、学校支援を通じて、生きがいきづくりへ連動する。
- ・気軽に相談でき、要望に合う方をコーディネートする。そのことでお互い喜んでもらえる。
- ・保護者の地域行事への参加
- ・保健福祉、防災等などセーフティコミュニティとしての活動

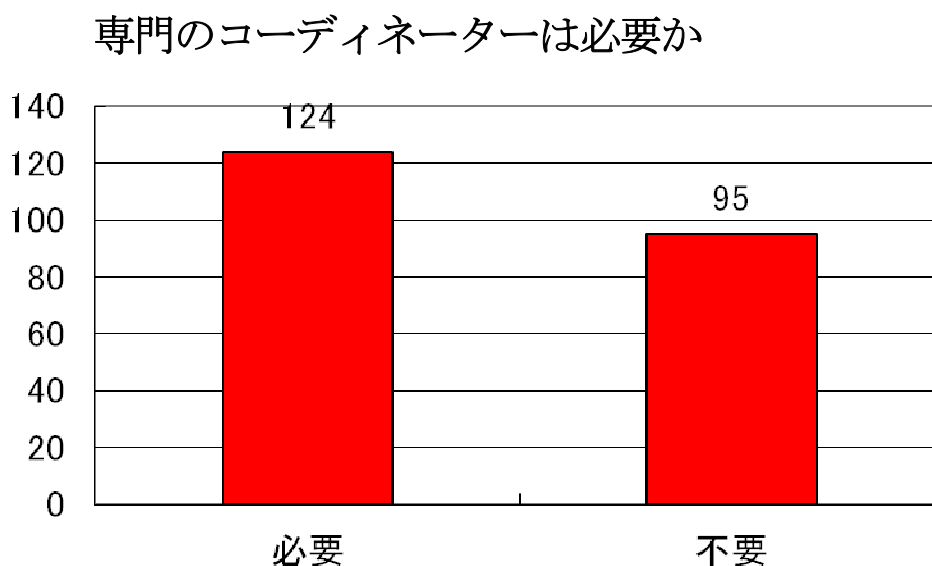
問5 コーディネーターがいない場合の窓口

*いない場合は、公民館職員が多い。



問6 コーディネーターの必要性の有無と理由

*約57%は必要と捉えているが、43%は不要と捉えている。



(「必要」と回答した理由に関する自由記述抜粋)

- ・公民館職員では、時間的制約があるため。
- ・多忙な学校管理職の業務軽減のため。
- ・将来的には必要
- ・学校との連携で、具体的な手立てを講ずるための人員が必要。
- ・その存在は頼りになる。ただその方だけに情報が集中しないようにする必要もある。
- ・自治会長は多忙であり、又自分の地域に無関心な人も増えてきた。
- ・学校との連携には司令塔が必要。学校の活動を理解し、意見交換できる人材が好ましい。
- ・学校の具体的な情報を把握することができるので、その情報に合わせて自治会の行事を調整できる。

- ・学校・地域の要望の把握、ボランティアの募集、連絡調整をするうえで、必要。
- ・自治会運営であり、役員も全てボランティアでは限界。
- ・連携していくためには、企画・調整力のあるコーディネーターが必要。協議会などで、ポジショニングを明確にしておく必要がある。
- ・地域を理解し、学校の状況が理解できる関係者が必要。
- ・連携を深める意味でも必要。
- ・第3者が関わったほうが、スムーズにいくのかもしれない。
- ・一定の人が担当することによる事例・経験の蓄積ができる。スキルアップは必要。
- ・学校との連絡調整、ボランティアからの相談窓口が明確になる、学校からの要望に応じやすい。
- ・学校・地域の要望を的確に把握し、企画運営を行うには、必要。
- ・学校、地域、単独では実施できない事業が多くあり、一緒に考え意識を共有することにより、よりよい連携事業の開催が増える。
- ・学校教育は学習指導要領の制約があり、学校教育に精通した職員が必要。
- ・高いスキルと熱いボランティア精神を持つ人材が、連携をスムーズにできる。
- ・事業の充実のためには、現場を把握して適切に対応していくことが重要。

(「不要」と回答した理由に関する自由記述抜粋)

- ・職員一人ひとりが意識を持つことが必要。
- ・自治会長との職務範囲の兼ね合い。
- ・コミュニティ・スクールで役割が決められている。
- ・小さな自治会にとっては困難。
- ・地域との連携が取れないコーディネーターは不要。単独で動かれては、地域の連携が取れない。
- ・現状のままで十分である。
- ・学校内にコミュニティセンターがあり、協議しながら進めていけばよいから。
- ・通学合宿における学校との連携の重要性は高くない。子どもへの周知等は学校ではなく自治会でしている。
- ・小学校区の地域の代表者会が行われているので。
- ・公民館をコーディネーターとして連携を行っており、事業ごとに教職員とコンタクトをとっている。
- ・校区運営協議会に、学校長も含まれており、必要に応じて話し合いもできている。
- ・いつも連携がとれている。
- ・現段階で必要性を検討していない。
- ・どんなニーズがあるのか分からない。
- ・定期的に情報交換をすればよい。必要なときは一つのテーブルで話せばよい。
- ・いたほうがいいと思うが、役職を選考すると反発がある。
- ・校区の毎月の便りづくりで、顔を合わせたり、行事等でコミュニケーションが取れたりしているので、必要ない。
- ・学校併設なので、お互いの連携・協力がとれている。コミュニティ・スクールのメンバーでもあり、学校運営にも携わっている。
- ・直接協議しているので、必要はない。
- ・現段階でいなくても、不便さを感じていないので。
- ・当事者同士のほうがよい。
- ・PTAで活動され、公民館へ連絡されているため。
- ・学校との連携は現時点では難しい。公民館事業は、公民館職員が行う。
- ・業務量と人件費から勘案すると、必要ではない。ボランティア育成から意識付けをしていけば、問題ない。
- ・学校も公民館も、この連携にウェイトを置いていない。
- ・事前に登録しているボランティアの依頼しているため、必要ない。
- ・学校の担当職員で対応できる。
- ・公民館長や学校長自らが、意見調整するので必要ではない。予算もない。
- ・特段の事業はなく、例年通りであるため。

公民館（コミュニティセンター等）における学校との連携に関する調査 調査票

福岡県立社会教育総合センター 所長

この調査は、公民館（コミュニティセンター等）と学校との連携に係る事業等の状況を把握し、学校・地域の連携を推進するための基礎資料とするとともに、当センターが実施する研修等の充実に資することを目的としています。

ご多用のところとは存じますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

なお、調査結果は全て統計的に処理いたします。本調査研究の参考資料とする以外に使用することはありません。

＜記入の前にお読みください＞

- 1 この調査における「公民館」とは、中央公民館、地区館、分館及び、コミュニティセンター、生涯学習センター等の類似施設（自治公民館を除く）を指します。その他、本調査の趣旨から職員が常駐し管内小中学校と連携している、又は連携できるとと思われる公民館等も含めてください。
但し、職員は常勤・非常勤の種別は問いません。
- 2 調査基準日は、設問に特に記述等がない限り、平成25年4月1日とします。
- 3 記入もれがありますと、正確な実態把握に支障が生じるので、もれがないように記入してください。
- 4 回答は、E-mail でお願いします。E-mail で提出が不可の場合は、下記までFAXで送付してください。
- 5 様式はHP「ふくおか社会教育ネットワーク」からもダウンロードできます。なお、調査結果の一部につきましてはHP「ふくおか社会教育ネットワーク」で公開させていただくことをご了承ください。

【調査に関する問い合わせ】

〒811-2402

福岡県糟屋郡篠栗町大字金出3350-2

福岡県立社会教育総合センター 研修・情報室

社会教育主事 豊福 健一

電話：092-947-3512 FAX：092-947-8029

E-mail：toyofuku-k7470@pref.fukuoka.lg.jp

☆回答者についてご記入ください

市 町 村 名	
施 設 名	
所 在 地	〒
回答者職名	
回答者氏名	
電 話 番 号	
F A X 番 号	

設問1 貴公民館（又はコミュニティセンター等）及び学校との連携の有無について、お聞かせください。

＊以下「公民館」と表記します。

問1 貴公民館等の施設種別について、お聞かせください。次の種別から番号を記入ください。

		回答欄
施設種別	①中央公民館	
	②地区・校区公民館（自治公民館を除く）	
	③コミュニティセンター	
	④生涯学習センター	
	⑤その他（市民センター等）	

問2 貴公民館内の職員数について、お聞かせください。下記の回答欄に数字で記入ください。

	常勤	非常勤	その他	合計
館長				
主事等				
その他職員等				
合計				

問3 貴公民館では、管内小・中学校との連携・協力事業（授業支援・学校行事・公民館行事等）等
はありますか。

		回答欄
連携・協力事業の 実際	①ある ⇒ 問4へ	
	②ない ⇒設問2の間3のみお答えください。	

問4 問3で「①ある」と答えた公民館にお聞きします。その連携・協力事業等について窓口になっ
ている方はどなたですか。

公民館側	回答欄
①館長	
②主事	
③その他の職員（地域活動指導員等、具体的にお書きください）	

学校側	回答欄
④学校長	
⑤教頭	
⑥教務主任	
⑦その他教員（クラス担任等、具体的にお書きください）	

設問2 学校との連携・協力事業等の実際についてお聞きします。

問1 設問1・問3で「①ある」と答えた公民館にお聞きします。その連携・協力事業等の内容についてお聞かせください。回答欄の当てはまるところに、○をお書きください。(複数回答可)

◎主に学校教育活動において

		回答欄
授業支援	丸つけ先生	
	サポートティーチャー（家庭科のミシン補助など）	
	ゲストティーチャー （専門的な知識の話をしたり、技術や技能を示したりなど）	
	体験活動の場の提供（昔遊びなど）	
課外活動支援	あいさつ運動	
	図書ボランティア（朝の読み聞かせなど）	
	遊び・学びの放課後教室	
	放課後の学習の補充など	
環境整備	学習環境の整備（学校図書の整理など）	
	施設整備等（教室や校舎修繕・点検など）	
	校庭の遊具の整備や点検補助など	
	樹木や生け垣、花壇の手入れなど	
安全確保	登下校の安全確保	
	安全・防犯パトロール	
	子ども避難所（子ども110番の家）	
行事	学校行事の参加 米作り体験 運動会 等	
	放課後の居場所ルーム	

その他、授業支援や学校行事等で、できるかぎり具体的に記入をお願いいたします。

◎主に公民館活動において

		回答欄
講座支援	公民館講座における学校教員の講師	
	公民館講座における学校施設利用	
	公民館講座における学校の物品活用	
	講座利用者等との交流など	
地域活動・行事支援	伝統行事	
	地域のお祭りなど	
	体験活動広場	
	地域でのクラブ活動など	
	公民館行事	
	通学合宿	
	社会力育成事業	
	子ども読書リーダー養成事業	
環境整備	地域環境の整備	
	施設整備等（保全・点検など）	
	自然環境保全	

その他、地域行事等で、できるかぎり具体的に記入をお願いいたします。

問2 学校との連携・協力事業等を実施したことによる成果についてお聞かせください。

回答欄の当てはまるところに、○をお書きください（複数回答可）

	回答欄
① 地域の方が学校へ入ることにより、学校と地域との連帯感が強まった	
② 地域の方に、学校の教育活動を支援していただくことにより、地域の方の学校に対する信頼が増した。	
③ 学校支援をする方から、学校の教育活動における支援に「生きがい」や「やりがい」などを感じるという声が聞かれるようになった	
④ 地域住民が子どもを地域ぐるみで育てるという意識を持つようになった	
⑤ 地域の方から、「学校の教育活動がよく理解できるようになった」という声が聞かれるようになった	
⑥ 子どもが地域の行事に以前より積極的に参加するようになった	

⑦ 地域の安全意識が高まった	
⑧ 成果はなく、負担感が増えた	
⑨ その他	

その他について、記入をお願いいたします。また①～⑧について具体的に記入をお願いいたします。

問3 学校と連携・協力することに対する課題についてお聞かせください。

回答欄の当てはまるところに、○をお書きください（複数回答可）

	回答欄
① 学校連携・協力の窓口になる方が特定でなく、誰に相談したらいいかわからないときがある。	
② 学校連携・協力事業等のボランティアの活動場所の確保	
③ 学校連携・協力事業等のボランティアのための予算確保	
④ 連携事業のための会議や職員会議等での検討（位置付けやルールなど）	
⑤ 学校連携・協力事業等の支援をしていただく内容の決定	
⑥ 既存の同様な活動との調整不足	
⑦ ボランティアの募集	
⑧ 学校の理解が、なかなか得られない	
⑨ 地域の方の理解が、なかなか得られない。	
⑩ 情報量が少ない（学校・地域等）	
⑪ その他	

できましたら、その他、課題等で、具体的に記入をお願いいたします。

問4 学校と連携・協力事業等を進めていく上で、重要と考えられていることについて、お聞かせください。回答欄の当てはまるところに、○をお書きください（複数回答可）

	回答欄
① 学校と地域・ボランティアとの連絡調整	
② 事業や行事・授業支援等の企画運営	
③ ボランティアの募集	
④ 学校・地域の要望の把握	
⑤ ボランティアとの相談	
⑥ 情報提供	
⑦ ボランティア募集のためのチラシ作成等	
⑧ その他	

その他で、できるかぎり具体的に記入をお願いいたします。

設問3 学校との連携・協力事業等を進める上での特定の窓口になる方（コーディネーター）についてお聞かせください。

問1 学校との連携・協力事業等を進める上での、窓口になられる特定の方（コーディネーター）はいらっしゃいますか。

	回答欄
コーディネーター	①いる ⇒ 問2へ
	②いない ⇒ 問5へ

問2 問1で「①いる」とお答えいただいた公民館にお聞きします。そのコーディネーターの方についてお聞かせください。

	回答欄
経験の種類	①退職教職員 ②元PTA関係者 ③現PTA関係者 ④現社会教育関係者 ⑤地域住民組織等関係者 ⑥元社会教育関係者 ⑦その他（ ）
年齢	①30代未満 ②30代 ③40代 ④50代 ⑤60代 ⑥それ以上
選定理由	①教育委員会からの推薦 ②PTA・地域活動など日頃から付き合いのある地域住民からの推薦 ③他校の教職員・住民からの推薦 ④学校評議員・学校運営協議会委員から ⑤その他（ ）

問3 学校の連携・協力事業等における、コーディネーターの役割についてお聞かせください。

回答欄の当てはまるところに、○をお書きください。(複数回答可)

	回答欄
① 学校と地域・ボランティアとの連絡調整	
② 事業や行事・授業支援等の企画運営	
③ ボランティアの募集	
④ 学校・地域の要望の把握	
⑤ ボランティアとの相談	
⑥ 情報提供	
⑦ ボランティア募集のためのチラシ作成等	
⑧ その他 ()	

問4 学校の連携・協力事業等における、コーディネーターの存在のよさについて具体的にお書きください。

--

問5 問1で「②いない」とお答えいただいた公民館の方にお聞きします。学校との連携・協力事業等を進める上での、窓口になられる方はどなたが主にされていますか。

	回答欄
連携・協力の窓口の方	①公民館職員
	②地域活動指導員等
	③公民館以外の方(地域の方)
	④特定はいない

問6 学校との連携・協力事業等において、コーディネーターの必要性の有無と、その理由についてお書きください。

コーディネーターは、(必要である ・ 必要でない) *○で囲んでください

理由

以上で質問を終わります。ご協力ありがとうございました。